

# 平成18年度決算状況

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

**一般会計** 歳入決算額 169億6,583万8千円 (前年度比4.2%増)  
 歳出決算額 162億8,758万円 (前年度比3.8%増)

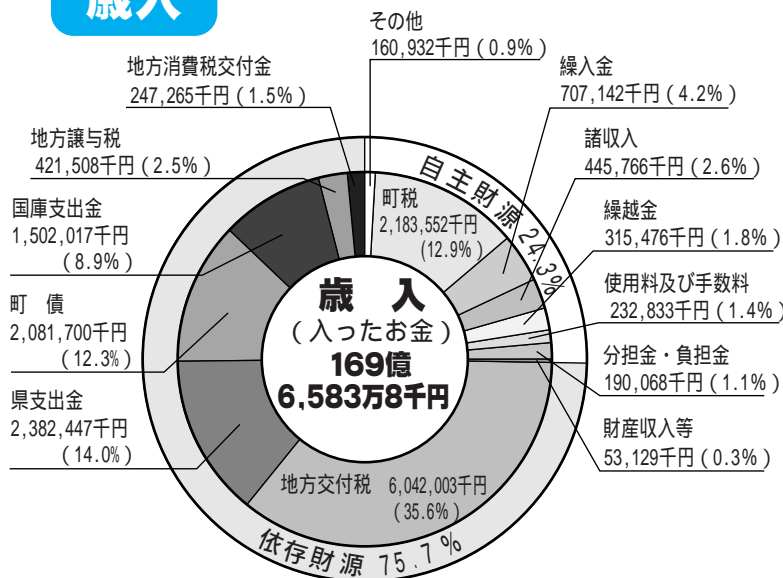
## ◆町の家計簿のお知らせ

平成18年度決算は、合併後の2年目の決算となります。総合振興計画に基づいた本格的な町政の推進への取り組みを進めていましたが、鹿児島県北部豪雨災害の影響で、主要施策を災害復旧・復興・支援活動の推進に大きく方向転換する必要に迫られました。

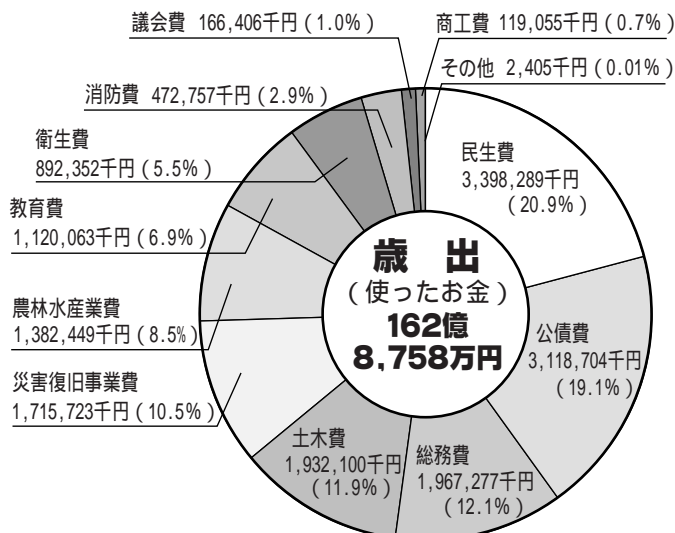
町の家計簿(決算状況)の実状をみてみますと、地方財政に直接影響を及ぼすこととなった「三位一体の改革」の実施により大変厳しい状況にあります。これは全国の市町村にとって等しく言えることですが、本町には、平成9年の県北西部地震の影響や各種公共施設の管理費などを含め、独自の原因もあります。

将来にわたって不安のない財政基盤を確立するため、引き続き行政改革など、財政の建て直しに取り組んでまいります。

## 歳入



## 歳出



## ◆収支の状況

平成18年度の一年間に、町に入った金額(歳入)169億6,583万8千円から、使った金額(歳出)162億8,758万円を差引いた額は、6億7,825万8千円で18年度から19年度への繰越事業に必要な額を除くと6億6,244万8千円(実質収支)となりました。

### ○地方交付税は、1億1,650万8千円の減(前年度比1.9%減)

市町村に生じる財政力の格差を調整するために国から交付されるのが地方交付税です。普通交付税は三位一体の改革などに対応した経費が抑制されたことにより減少しましたが、特別交付税は合併による特例措置、豪雨災害関連経費が算定されたことにより増額となりました。

皆さんが納められた町税は歳入の12.9%を占め、いろいろな事業を実施するためのたいへん貴重な収入となっています。

町税をはじめ独自に確保できる自主財源は、全体の約24.3%で、国や県などへの依然度が高くなっています。

## 町税 2,183,552千円の内訳

固定資産税	1,080,426千円	(52.7%)
町民税	868,463千円	(39.8%)
たばこ税	165,097千円	(7.5%)
軽自動車税	65,131千円	(3.0%)
その他の税	4,435千円	(0.2%)